

雑兵物語：足軽のためのハウツーガイド

『雑兵物語』は、17 世紀の軍隊の大部分を占めた槍兵、弓兵、鉄砲兵、厩番、運搬係のための助言書である。本書は、30 人の足軽兵と支援部隊の証言と助言で構成されている。この『雑兵物語』は、新兵のためのわかりやすい指導書として、生き生きとした口語体で書かれている。

足軽は給料も装備も食事も貧しく、戦場で生き残るためには戦闘技術だけでは不十分だった。『雑兵物語』には、暖を取るためにつぶした唐辛子を足に塗る、馬糞を燃やして火を起こす、縄や木の皮で汁物を作る、敵地で略奪した食料や衣類を埋める、などの方法が書かれている。

砲術についても詳しく説明されている。射程距離の目安（約 100 メートル）、馬上での対処法（まず馬を撃ち、次に騎手を撃つ）、敵が迫ってきたときの刀の使い方（露出した足や手に振り下ろす-足軽の安物刀は重い鎧に対して「鍋の柄のように曲がる」）などが解説されている。

『雑兵物語』は 1657 年から 1683 年にかけて編纂されたが、当時は実戦経験のある軍人が少なくなっていた時代であった。島原の乱（1637-1638）を最後に大規模な軍事紛争がなくなり、徳川幕府（1603-1867）が数百年にわたる社会の安定を作り出した時代である。そのため、武士たちは自分たちの専門知識を伝える新しい方法を考えなければならなかった。

『雑兵物語』は、大名で將軍の相談役であった松平信興（1630-1691）の著作とされることもあるが、その真偽は定かでない。

武器図鑑：足軽のためのハウツーガイド

『武器図鑑』は、1848 年に出版された武器や鎧などの軍装品の図鑑である。学習教材として、ページには切り取り線があり、コマを切り取ってカルタとして使用することができる。

収録されているのは、剣、短剣、弓、矛などの武具、旗、幟などの合図用具、軍艦、要塞、攻城兵器など、あらゆる種類のものである。17 の項目は、大砲、マスケット銃、爆弾、弾薬、火縄、竿、運搬船などの銃器やその付属品を扱っている。図版はカラーで、各武器の名称は漢字と読みやすい音読みの両方で記載されている。

赤羽文庫

松本城鉄砲コレクションを寄贈した赤羽道重・か代子夫妻は、鉄砲に関するさまざまな書籍や資料も所蔵していた。日本だけでなく西洋の書籍も含む赤羽文庫は、火縄銃やその他の武器のコレクションとともに松本市に寄贈された。